

第2学期始業式式辞（令和5年8月24日）

皆さん、おはようございます。

1学期の終業式は、リモートで行いました。今、新型コロナウイルス感染症は少し落ち着いているように見えますが、ゼロになったわけではありません。いつ感染が拡大するかわからない。油断は禁物です。今後も、基本的な感染対策を忘れず、お互い、元気に2学期を始めていきましょう。

夏休みには、大きな大会やイベント、海外研修に参加した人が多くいました。台風やコロナの関係で心配した面もありますが、全員が元気に帰ってきたこと、それぞれが成果を上げてくれたことを、うれしく思います。普段と違った経験を、今後の成長に生かしてください。

また、大きな大会や海外に行かずとも、毎日の補習や部活動を地道に頑張った人が多くいます。特に3年生は、受験勉強にしっかり取り組んでくれました。そんな全ての東高生に「雨垂れ、石を穿つ」をいう言葉を贈ります。この言葉は、今年の書道パフォーマンス甲子園で、本校書道部が書き上げた言葉です。雨垂れのような小さな力でも、根気強く続ければ、堅い石に穴を開けることもできる、成功に導くことができるという、とても勇気づけられる言葉です。1学期の終業式に、皆さんにお願いした「挑戦・努力を継続すること」につながる言葉として、今日、改めて紹介しました。「雨垂れ、石を穿つ」です。

もう一つ、1学期の終業式に皆さんにお願いしたことは、「人を思いやる豊かな人間性を身に付けてほしい」ということです。そのことに関連して、東高生に知っておいてほしいこととお話しします。学校の中庭に、「三好志奈ボランティア基金」というプレートが掲げられた街灯があります。正岡子規と夏目漱石の句碑の横にあるのですが、この街灯のことについて、お話をします。

「三好志奈」さんは、本校の卒業生で、大学卒業後、県外で報道記者として活躍しておられました。取材中のヘリコプター事故で、26歳の若さでお亡くなりになりました。その志奈さんの志を汲んだ御両親が、10年間にわたって、毎年、人のために頑張っている東高生を対象に、「三好志奈ボランティア賞」を贈ってくださっていました。その10年がたった昨年、そのことを記念して、中庭に街灯を設置させていただきました。皆さんも、そういった先輩がいらっしまったということを知り、中庭を優しく照らす街灯を見てください。

いつも「人を思いやる」ということは難しいことかもしれません。しかし、これから自分がしようとしていること、言おうとしていることが、人を傷つけることになってはいないか、自分のためだけのことになってはいないか、そういうことに気付ける生徒になってほしいと思います。

今日から2学期が始まります。運動会、文化祭と続く学校行事、そして、学習、部活動と、三立を目指す充実した毎日になると思います。繰り返しになりますが、その中で、どうか、「挑戦・努力を継続する力」「人を思いやる豊かな人間性」を育ててほしい。2学期の皆さんの成長と活躍を期待して、式辞とします。